

(電子メール施行)
農技第1569号
平成31年3月7日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予報第8号を発表します。

平成30年度病害虫発生予報 第8号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
春キャベツ	黒腐病	平年並	やや少
	菌核病	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	少
	モンシロチュウ	平年並	少
タマネギ	白色疫病	やや少	少
	細菌性病害	やや多	平年並
	べと病	やや多	平年並
	灰色腐敗病	やや多	平年並
	ネギアザミウマ	平年並	やや少
春レタス	灰色かび病	平年並	やや少
	菌核病	平年並	やや少
	ハモグリバエ類	やや少	少
イチゴ	灰色かび病	平年並	平年並
	うどんこ病	平年並	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
	ハダニ類	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(3月9日から4月8日までの天候見通し)

平成31年3月7日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温がかなり高い見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

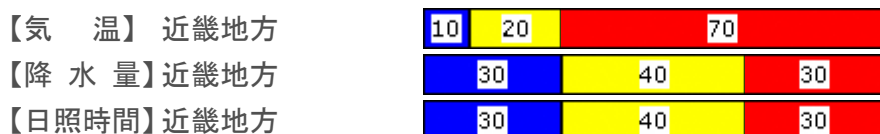
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 3月 9日(土)～ 4月 8日(月)
1週目 : 3月 9日(土)～ 3月15日(金)
2週目 : 3月16日(土)～ 3月22日(金)
3～4週目 : 3月23日(土)～ 4月 5日(金)

*発生概況及び防除対策上の留意点

春キャベツ

1【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査では発病は認められていないが、病害虫防除員をはじめとした現地調査ではわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病は気温の上昇とともに感染が助長され、平年並に発生すると考えられる。

2【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は8.3%（平年値23.9%）、発病株率は0.2%（平年値1.9%）とやや少ない発生であった。しかし、病害虫防除員をはじめとした現地調査においては発生株率が10%のほ場も確認されており、ほ場によるバラツキが見られるものの、全体的には平年並の発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病は気温の上昇と降雨により感染が助長され、やや多く発生すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 発病株は、菌核が形成される前に抜き取ってほ場外に処分する。発病が認められたほ場では二次感染が懸念されるので、薬剤防除を実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

3【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の場内ほ場及び病害虫防除員をはじめとした現地調査では発生は認められていない。

イ 春期の気温の上昇に伴い、有翅虫の飛来があり、今後1か月の気象予報によると気温は高いと予想されており、アブラムシ類は平年並の発生になると考えられる。

4【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の病害虫防除員をはじめとした現地調査では成・幼虫とも発生は認められていない。

イ 春期の気温の上昇に伴い、成虫の発生が増加し、今後1か月の気象予報によると気温は高いと予想されており、本種は平年並の発生になると考えられる。

タマネギ

1【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査及び病害虫防除員をはじめとした現地調査では発病は認めら

れていない。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病は降雨で発生が助長され、やや少なく発生すると考えられる。

2 【細菌性病害】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査では発生ほ場率は25.0% (平年値 14.4%)、発病株率は0.1% (平年値0.1%)、同時期の病害虫防除員をはじめとした現地調査では発生ほ場率は25.0% (前年値20.8%)、発病株率0.5% (前年値0.4%) と平年並の発生状況であった。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病は気温の上昇と降雨により発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 収穫時の傷口から本病が感染して貯蔵腐敗に結びつくので収穫は晴天の日に行い、切り口を十分乾燥させるように努める。

イ 主に腐敗病と軟腐病が発生し、立毛中のみでなく収穫後の貯蔵中にも発病するので、体系的に薬剤防除を行う。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査及び病害虫防除員をはじめとした現地調査では発病は認められていないが、関係機関による調査では全身感染株と二次感染株を確認している。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病の感染に好適な条件(気温15℃前後で曇雨天日が連続する)が出現する可能性があり、発病の増加が懸念される。

(3) 防除上の留意点

ア ほ場の観察に努め、全身感染株の抜き取りを徹底する。抜き取り株はほ場外に持ち出し、適正に処分する。

イ 薬剤防除を行う場合は、散布ムラの無いように十分量の薬剤を散布する。

ウ 連続して2日以上降雨が予想される場合は、本病の二次感染が懸念されるので、降雨前に必ず薬剤防除を行う。

エ タマネギべと病の防除の徹底については、平成30年度病害虫発生予察防除情報第5号(平成31年3月6日付)を参考に(HPに掲載)すること。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

4 【灰色腐敗病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の病害虫防除員をはじめとした現地調査では発生ほ場率は12.5% (前年値

4.2%)、発病株率は0.3%(前年値0.1%)の発生状況であり、関係機関による調査でも発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病は気温の上昇と降雨により発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 立毛中のみでなく収穫後の貯蔵中にも発生するので、体系的に薬剤防除を行う。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

5 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の病虫害防除員をはじめとした現地調査では発生は認められていないが、予察ほ場では成虫の発生を確認している。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高いと予想されており、本種の増加に好適な環境になり、平年並の発生になると考えられる。

春レタス

1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の病虫害防除員をはじめとした現地調査では発病は認められていないが、巡回調査では発生ほ場率は8.3%(平年値27.4%)、発病株率は0.2%(平年値1%)とやや少ない発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、現地においてはトンネル被覆が行われているため、トンネル内では多湿となって発生はやや増加し、平年並に発生すると考えられる。

2 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査では発病は認められていないが、病虫害防除員をはじめとした現地調査ではわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、現地においてトンネル被覆が行われているため、トンネル内では多湿となり発生はやや増加し、平年並に発生すると考えられる。

3 【ハモグリバエ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 2月の病虫害防除員をはじめとした現地調査で発生は認められていない。今後春期の気温の上昇に伴い発生が見られ、幼虫では、葉に白いスジ状の食害痕が見られるようになると考えられる。

イチゴ

1 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の場内ほ場では発病は認められていないが、病害虫防除員をはじめとした現地調査(品種：章姫)では発病株率11%(前年値2%)と、ほ場によるバラツキが見られたが、全体的には平年並の発生であった。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されているものの、本病の発生は平年並に推移すると考えられる。

ウ 果実の柔い品種や株が繁茂した状態で発病しやすい。

2 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の病害虫防除員をはじめとした現地調査では発病は認められていないが、場内ほ場ではわずかに発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生はやや増加し、平年並の発生になると考えられる。

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の病害虫防除員をはじめとした現地調査ではわずかに発生が認められている。

イ 施設内ではアブラムシ類の発生に好適な環境となり、今後1か月の気象予報によると気温は高いと予想されており、平年並の発生になると考えられる。

4 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の場内調査では発生は認められていないが、病害虫防除員をはじめとした現地調査では、苗からの持ち込みと思われるハダニ類の発生が昨年から続いている。

イ 今後1か月の気象予報によると気温は高いと予想されている。また施設内ではハダニ類の増殖に好適な高温・乾燥条件となりやすいので、現在ハダニが発生している施設では特に注意する。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、薬液が葉の裏に十分かかるように行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム) (<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)